

学生の声

参萬円のウイスキー

情報学研究科 通信情報システム専攻 守倉研究室 博士後期課程2年 神 矢 翔太郎

ロイヤルハウスホールド、ウイスキーが好きな人にはご存じのことかも知れませんが、英国でもバッキンガム宮殿内と王室御用達のホテルバーでしか味わえないウイスキーが、英国王室と日本の皇室との友好の証として、日本では特段苦勞することもなく入手が可能です。日本だけが販売を許可されている、すごくないですか？とはいえ、さすがは英国王室御用達、タイトル通りの価格設定であり、博士学生にはなかなか手が出ない代物です。

とはいえ、数千円程度のウイスキーばかりを飲み続けるもなんなので、背伸びをして買ってみました。当然「こんなに高いウイスキーなのだから、さぞ美味しかろう」という期待があります。一口飲み、二口飲み、さて。……残念ながらよく分かりません。理性が「30,000円のウイスキーを美味しく感じないわけがないだろう」と味覚に訴えかけてきます。「コレは美味しいはずだから美味しいと思っておこう」そんな滑稽な感覚です。心から「これは素晴らしい風味だ！」と思うには、私は実力不足でした。

そんな私でしたが、最近では色々と飲み比べをしてみて、違いや特徴、美味しいとはいったいどんな感覚か、何が値段を高くせしめるのか、などを分かった気になっています。全く分からないよりは、一歩前進です。思い返せば、知識や経験がない段階では、物事の良さを評価することがままならなかったのです。この話は何もウイスキーだけの話ではありません。例えば、「板前のシゴト」についての知識がないと、高級寿司屋を高級たらしめる理由も分かりません。2万円のお寿司屋さんに行って初めて、不勉強に気付き猛省しました（浪費じゃないです）。物事の良し悪しを判断するには実力が必要です。何も考えず、「ウイスキーなんて高いのも安いのも変わらん」などと言ってしまうと、さて。

やったこともないものを勝手に神格化しない、やったこともないものを勝手に軽蔑しない、何にせよまず手を出して、腰を据えて経験を重ねる。何をすることも大事なことかなと思います。あ、研究についても、です。

なぜその研究をするのか

工学研究科 電気工学専攻 引原研究室 博士後期課程1年 萬 成 遥 子

表題の質問に対し、多くの研究者はどのように答えるのでしょうか。「上司からの指示」という回答を除けば、主に二通りの答え方があるかと思います。一つ目は、その研究対象の興味深い点を述べるといえるものです。もう一つは、その研究の社会的価値を説明する方法です。私が研究室に配属されてから研究を進めていくうちに、後者の方法が自分にとっては案外難しいということに気づきました。

これまで私はレドックスフロー電池を対象に動作解析などを行ってきました。この電池はポンプによる電解液の循環機構を持っています。電解液の循環にまつわる諸々の問題を興味深いと思い、研究の対象に選びました。しかし、世間を賑わせているリチウムイオン電池に比べ、レドックスフロー電池の知名度は決して高くはありません。こうした電池を扱う以上、必ず出くわす質問のうちに「リチウムイオン電池でいいじゃない。なんでわざわざそんなものを扱っているの？」といった類のものがあります。一時期、この類の質問を受ける度に神経を尖らせて反論をしていました。その回答に納得してもらえなかったこともあります。そのような事態を招いた原因の一つが自分の説明不足や力不足だ、と今では反省しております。

言うまでもなく、研究の社会的価値を相手に納得させることは重要です。工学になると、この点がよりシビアになります。ただ、自分の研究の何が興味深いのかを考える視点も大事だと個人的には思っております。興味の対象とするものと社会的価値が広く認識されているものが一致しない場合もあるでしょう。それを理由に研究をやめるような事態を避けたいというのが、私の本音です。そのためには、社会的価値を説明する努力と、説明を裏付ける実績が求められるのだらうと思います。そんな研究者になれるように今後も精進したいと思います。